

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	めいじょうだいがくふぞくこうとうがっこう				②所在都道府県	愛知県
26～30	①学校名	名城大学附属高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科	1409名
普通科	429	145	24		598	総合学科	463名
						合計	1872名
⑥研究開発構想名	高大協働による愛知県産業を基盤にしたグローバルビジネス課題の探究						
⑦研究開発の概要	愛知県のビジネス課題を軸に、高大・産学協働の探究活動を行う。PBLの学校設定科目と課外活動とを融合させたサービスラーニングによりスキルとマインドセットを育成し、グローバルシチズンシップを獲得させる。評価・検証には、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価、定期的なアンケートによる統計学的手法を用いる。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>地球に生きる一市民として、社会や世界の諸問題を当事者意識をもって捉え、他者との協働を通して解決に向かう意欲あふれる人材を育成する。そのための体系的な教育課程やプロジェクト型学習（PBL）の教育課程を開発し、校内及び他校に普及する。</p> <p>以上の目的を踏まえ、研究開発目標として①「グローバルパスポート」制度のプログラム実施、②各教科におけるPBLの展開例の開発と定着、実践目標として①スキルとマインドセットの育成、②ローカルとグローバルを往還する視座の獲得、③国内外の研修、大会及び社会活動に主体的に参加する生徒の育成、④年間12回以上のプレゼンテーションの実施、⑤CEFRのB2レベル到達率100%、⑥国際化を進める国内・海外の大学等、課題研究を生かした研究を行える大学へ進学する生徒の育成の計8点を設定する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>対象である国際クラスの生徒については、探究型学習や英語学習で一定の成果を得た。本SGH事業においては、従来の取組では十分には育成できなかった「批判・摩擦・失敗を恐れず、変化する状況へ対応する」マインドセットや「コミュニケーションをとりながら協働し問題解決に向かう」スキルを、課題探究の各取組の中で育成し、それらを通してグローバルシチズンシップを形成していくことが肝要である。</p> <p>そのため、本研究開発においては、「世界の現状と課題に触れる経験」、「自らの意見を発表し、他者と対話・議論する経験」、「自ら新たなネットワークを構築する経験」を重視し、「スキルとマインドセットの育成は、グローバルシチズンシップの獲得に有効である」と仮説を立てる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>全国のSGH指定校に呼びかけ、生徒研究討論会「SGHミーティング」と生徒研究発表会「SGHフェスタ」とを毎年継続的に開催する。同時にパネルセッションも行い、全国のSGH指定校に広く発表の場を提供する。この活動は研究成果の発表というだけではなく、生徒、教員を含めた指定校相互の交流、情報交換の場であり、また、SGHの成果を広く情報発信し理解を図る、中核拠点的な意味合いも含んでいる。そのため、名城大学と密接に連携し、産業界にも協力を求めて高大・産学協働で実施し、近隣の中学校、高等学校に向けて「SGHミーティング」及び「SGHフェスタ」実施を案内し周知を図る。ミーティングまたはフェスタ実施後、発表校による研究集録を作成・配付する。</p> <p>なお、平成28年度以降は優秀発表者を表彰するとともに、本校の海外研修を利用した海外での発表を計画している。</p>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 ビジネスの領域、特に地域企業のグローバル化における諸課題を軸に研究する。ただし、地球市民としての責任感ある姿勢を育むために、経済面のみのアプローチではなく、教科・高大・産学融合型のサポートにより、「人間開発」、「CSV」、「コンフリクト・レゾリューション」、「協働・共生」の観点を学ぶことを特徴とする。具体例として、「愛知県中小企業のグローバル化戦略と課題」、「グローバルな起業モデル」、「外国人労働者との協働・共生モデル」及び「日系企業における多様性の調和とガバナンスのあり方」などを研究課題の分野として考えている。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 学校設定科目「スーパーサイエンスⅠ」、「多文化共生Ⅰ」、「多文化共生Ⅱ」及び「課題探究」において、研究課題や探究方法の理解、論文作成等を進める。それを補完するものとして、研究課題に関するフィールドワークを国内と海外で関連させて実施し、比較検討する。作成した論文及び課題解決に向けたアクションについては国内及び海外で発表を行う。探究の過程においては、有識者やSGH指定校生徒とも議論を行い、知識と理解を深める。検証は、生徒の意識及び行動の変容等についてのアンケート、プレゼンテーション、論文のルーブリック評価及びコンテスト等の受賞数によって評価する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 専門的な知識と幅広い教養を身に付け、高度教育への意欲を高めることを目的として、国際クラス第2学年を対象にした学校設定科目「国際教養Ⅰ」及び「国際教養Ⅱ」を開設し、名城大学人間学部の講義を受講する。検証評価は、大学生と統一の定期試験結果によって行う。外国人教員による「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「英会話Ⅲ」を各学年で実施し、発表や討論に取り組む。評価は発表等のパフォーマンス評価と定期試験の成績を合わせて行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 平成26年度実施分については、特になし。</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法 ポートフォリオ「グローバルパスポート」を用いて、グローバルリーダー育成のロードマップの開発及び取組み促進の材料とする。また、グローバルリーダー育成の検証評価の指針としても用いる。また、大学教員、専門機関職員、多国籍の人々等、多様な立場の人とともに、共通のテーマについて対話を通じて共に学びを深める、サロンの学習の場「グローバルサロン」を実施する。本取組は全校を対象として毎月実施する。課題解決に向けた活動として、ボランティア活動やアドボカシー活動等に取り組む。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） 該当なし。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>主たる対象となる国際クラスは、女子生徒の割合が高く、生徒会執行部など学校全体でリーダーシップを発揮している女子生徒も多い。このことを踏まえて、女性リーダーの育成も念頭に置いている。我が国は先進諸外国と比較して女性リーダーの割合が低いと思われる。SGH教育によってグローバルな視点を身に付けた女性リーダーの育成を目指す。</p>